

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670400185
法人名	社会福祉法人 明星福祉会
事業所名	南方園グループホーム けやきの里
訪問調査日	平成20年4月7日
評価確定日	平成20年5月9日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670400185
法人名	社会福祉法人 明星福祉会
事業所名	南方園グループホーム けやきの里
所在地 (電話番号)	枕崎市まかや町679 (電話) 0993-76-3461
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年4月7日

## 【情報提供票より】(平成20年3月24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成11年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 4.3 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 200 円
	夕食	200 円	おやつ 円
	または1日当たり		600 円

### (4) 利用者の概要(3月24日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3	5	名	要介護4	3	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	85.8 歳	最低	81 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	サザン・リージョン病院、ウエルフェア九州病院、山之内歯科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な茶畑の向こうに名峰開聞岳を望み、豊かな自然に恵まれた風光明媚な高台に、静かに佇むホームである。地域とともに歩んで行くという法人の基本理念に基づいて、敷地内には介護老人福祉施設やデイサービスセンター、生活支援ハウスや地域交流センター等があり、地域福祉の拠点としての役割を担っている。地域交流センターの温泉やクッキング教室は地域に開放されており、入居者にとっては、住民との貴重な触れ合いの場となっている。ホーム前の大きなけやきの木陰では、入居者と職員が愛犬とともにテーブルを囲み、お茶を飲みながらゆったりと過ごす姿が見られる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	金銭管理について課題とされたが、金銭出納帳を作成して、月1回ご家族の来訪時に確認印をもらうようにしており、頻繁に来訪が困難なご家族については、2ヶ月に1回出納帳の写しを郵送し、確認後返送していただくように改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を運営方法やケアのやり方についての振り返りの機会ととらえ、全職員で話し合いの場を設け、今後のサービスの質向上に向けて取り組んでいる。外部評価で指摘のあった項目については、早急に見直し改善に至っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者やご家族、行政の担当者、地域住民が参加して、ホームの近況報告や意見交換を行い運営に役立っている。今後は会議の運営方法についてご家族からアンケート等で希望を聞き、より有意義な会議ができるように準備を進めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議などでご家族から出された意見を検討し、必要に応じて改善に向けた話し合いを行い、サービスの質向上につながるよう努力している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接の地域交流センターや生活支援ハウスに出かけて、住民との交流を図っている。また、日常的な散歩や買い物、墓参りなどでも、なるべく多く地域の方々と触れ合う機会を持つよう取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念をもとに、地域との関わりを大切にしながら独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の唱和で理念の共有を図っており、日々のケアや会議などで理念を振り返り、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の地域交流センターや生活支援ハウスに出かけて、住民との交流を図っている。また、日常的な散歩や買い物、墓参りなどでも、なるべく多く地域の方々と触れ合う機会を持つように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を運営方法やケアのやり方についての振り返りの機会ととらえ、全職員で話し合いの場を設け、今後のサービスの質向上に向けて取り組んでいる。外部評価で指摘のあった項目については、早急に見直し改善に至っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者やご家族、行政の担当者、地域住民が参加して、ホームの近況報告や意見交換を行い運営に役立っている。今後は会議の運営方法についてご家族からアンケート等で希望を聞き、より有意義な会議ができるように準備を進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センター職員に気軽に相談できる関係が築かれており、ホームの運営に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回の「けやきだより」や毎月の請求書送付時に、入居者の暮らしぶりなどの近況を報告している。金銭出納帳は、月1回ご家族来訪時に確認をしてもらっている。遠方のご家族に対しては、「けやきだより」と一緒に金銭出納帳の写しを送付して、確認後返送してもらうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や運営推進会議での意見交換等でご家族の思いを引き出し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職する際には十分な引継ぎ期間を設け、入居者にとってダメージが大きくなるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人勉強会や月2回のホーム内勉強会に加えて、外部研修にも積極的に参加している。詳細な年間研修計画に基づき、個人別に受講チェック表も準備しており、積極的に職員を育成する体制が整備されている。		今後さらなる質の向上を目指して、全職員が一律ではなく、各人の立場や経験、習熟度に応じて、段階的に力をつけて成長できるような研修体制を検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流会を続けており、職員や入居者が触れ合い、情報交換を行い質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族や本人に見学してもらい、入居者の暮らしぶりや食事の様子を見て、ホームの雰囲気を味わっていただいた上でサービスを開始するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の長年の経験を活かして、野菜作りや料理など、生活の様々な場面で教わりながら支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を基本として、考えや表現が困難な入居者に対しては、表情やしぐさなどから本人の思いを汲み取り、無理強いすることがないように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族、職員が集まって話し合う機会を持ち、それぞれの考えを踏まえた上で介護計画を作成している。介護計画はいつでも見ることができる場所にあり、全職員が情報を共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行っており、気づきノートや経過記録等で状態変化を把握し、変化があった場合は話し合いを行い現状に即した計画に変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の希望に応じて、墓参りや通院、帰宅時の送迎などを行っている。また、関連施設で行われる法話会やクッキング教室等にも参加するなど、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望に応じて、かかりつけ医や協力医療機関による往診や通院の支援を行うなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についてのアンケートにより、本人やご家族の意向確認を行い、状態変化時には、関連施設の看護師やかかりつけ医等の関係者と話し合うことで方針の共有に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを傷つけることが無いように、言葉かけに気をつけている。個人情報については、法人内に専門の委員会があり定期的に勉強会を開催している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者および職員は、入居者一人ひとりのペースに合わせて、無理に押し付けないケアを心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある草花を採ってきて皿に盛り付け、見た目にも楽しめるように配慮されている。入居者は、力に応じて配膳、お絞りたたみなどの役割を持ち食事の準備に関わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴できるように一応の入浴日は決めているが、入居者の希望や状況に応じて柔軟に対応している。入浴の有無を記録しており、適切に入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者ができることの把握に努め、役割を持って生活できるように支援している。ホームでは犬を飼っており、その世話をすることが入居者の癒しや生きがいになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や周囲の散歩のほかにも、天気の良い日は入居者の自宅付近までドライブに出かけたり、墓参りや芋ほりなど、なるべくホームに閉じこもることがないように外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、入居者一人ひとりの行動パターンを理解して、外に出たいような場合は止めるのではなく一緒に付き添って散歩するなど、自由な暮らしができるように支援している。法人では行方不明者の捜査訓練を年2回行っており、職員にとって危機意識を持つ機会となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練時には入居者、職員、消防署の他に地域住民も訓練に参加して災害時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の管理栄養士にチェックしてもらい、栄養バランスの確認を行っている。また食事、水分の摂取量を日々把握しており、変化があった場合は業務日誌に記録して情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には自然の光が多く入り、ゆったりとした空間が広がっている。建物の周りには季節の花々や野菜が植えられており、天気の良い日はベランダに集まってお茶を飲んだり、日向ぼっこをしたりと、思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団を持ち込み、壁には本人やご家族の写真が飾られており、安心して暮らせるその人らしい居室となっている。		